

## 事業概要書

事業名	「小さな Cove」を通じた能登・石川の集い場づくり@金沢				
開始日	2024年3月21日	終了日	2024年9月30日	日数	194日
団体名	「小さな Cove」プロジェクト				
(カウンターパート)	(株) こみんぐる、一般社団法人ペンギンクルー				
担当者名	大畑 佐知	スタッフ人数	4人		

事業費総額 (税込)	329万円
CF 事業枠	250万円
その他資金	79万円

事業目的	<p>能登半島地震により、2次避難を余儀なくされた方々同士が集う「場」、元から暮らす方々と集う「場」をつくることを目的とする。</p>
事業全体の概要	<p>○「小さな Cove プロジェクト」及び Café Cove について</p> <p>「小さな Cove プロジェクト」は、Café Cove の店主である大畑とスタッフ、能登半島地震以前から Cove に集っていた人たちで結成された、「金沢における能登・石川の集い場をつくる」ことを目的としたプロジェクトチームである。</p> <p>Cove は石川県珠洲市折戸地区、木ノ浦海岸にあるカフェ。店主である大畑が 2016 年に旅した能登で木ノ浦と言う特別な場所とお店の建物に出会い、関西から移住を決意。お店の立ち上げから関わり、オーナーであった「二三味珈琲」の元 2 年営業ののち、独立し現在は 9 年目である。2023 年は奥能登国際芸術祭もあり、年間 8 ヶ月営業で約 7000 人が訪れた。</p> <p>しかし、2024 年 1 月能登半島地震の影響により、同地区は建物の全半壊等の被害のほか、土砂崩れ等による道の寸断、夥しい数の地割れなど、甚大な被害を受けた。Café Cove の店舗も被災し、現時点において復旧の目処は立っていない。</p> <p>○取り組む課題</p> <p>2024 年 1 月に発生した能登半島地震では、能登半島全域に被害が広がり、住宅の損壊やインフラへの打撃により、地域から外への 1.5 次避難、2 次避難を余儀なくされた方々が発生している。1.5 次避難では累計 1,387 人、2 次避難では累計 7,439 人（石川県災害対策本部員会議資料、2024 年 2 月 16 日）が避難しており、金沢市を中心に周辺市町にも、住民が避難を余儀なくされている。</p> <p>2 次避難者は、2 次避難すること自体に罪悪感を抱えたり（地元や「残る人たち」を見捨てたような感覚）、1 次避難所での生活との大きなギャップに戸惑ったり、自宅再建や収入等の見通しが立たなかったり、地域や日常生活での役割（畑等の共同作業、家事など）を喪失していたり、長期化する 2 次避難生活で、不安やストレスを抱えながらの暮らしを余儀なくされている。また、旅館・ホテル等の宿泊施設を中心に、衣・食・住が一定整った中での生活を送ることができているものの、町会単位等の集団避難を除いては、世帯単位での避難となっており、顔見知った友人・仲間との距離が離れ、見知らぬ土地で孤立状態に陥っている方々も多く、1 次避難所に比べて、こうした不安や悩みを、同じような境遇の人たち同士で、分かち合うことがしづらい状況に置かれている。</p> <p>2 次避難生活を経て、賃貸型応急住宅（みなし仮設住宅）等に入居した方々も、引き続き</p>

同様の状況におかれている他、入居した市町や地域に元々暮らす人たちとの関係をどのように構築していくのか（コミュニティづくり）という課題も抱えている。

「2次避難者と、2次避難者が集う場」や、「2次避難者と、元々暮らす人たちが集う場」が必要とされており、Café Coveとして、この課題に取り組みたいと考える。

#### ○パートナー事業で行なう事業・活動

##### コンポーネント①：「小さなcove」を通じた能登・石川の集い場づくり@金沢

・2次避難所となっているホテルや宿泊施設等が密集、またアクセスのよい金沢駅前において、2次避難を余儀なくされた方々や、元々金沢に暮らす方々が集う場として、常設型のカフェ「小さなcove」を運営する。能登半島地震で2次避難を余儀なくされた方々を主な対象とし、カフェという性質を利用して、支援／被支援に関わらずに、人が集える場としたい。

・また、同じく二次避難をしている事業者のイベント等で「出張小さなcove」（※仮称）を開き、活動の周知などを行うとともに、常設の「小さなcove」ではリーチできない二次避難者が集える機会づくりも行なっていく。

既に、2/10（土）、および24（土）にプレ企画を実施した。2/10（土）の実施では、計45人が来店し、2/24（土）の実施では、計23人が来店した。来店した方々からは、

「さちさんが、場所を作ってくれるから、能登の人たちが集まれるし、みんなの居場所になる」

「震災後久々にみんなの笑顔を見れたよ」

「ずっとずっと非日常が続いていて、自分たちにとっての日常がどんなだったか忘れかけていたけど、Coveのお皿とカップで出て来たのを見て、あの時の日常をそうだったと少しでも取り戻せた気がする」

といった声が寄せられており、集える場の必要性を示唆している。

#### ○期待される効果

この取り組みを通じて、2次避難者がひとりぼっちではないという安心感を得たり、避難生活で抱える不安や悩みを分かち合えたりすることで、長引く避難生活や生活再建を考える活力となったり、2次避難生活をおくる上での仲間をつくることことができる。

事業内容(事業種別 (コンポーネント) ごと)

裨益者 (誰が、何人)

##### コンポーネント①：避難者が安心できる集い場づくり (名前適宜変えて下さい)

2次避難所となっているホテルや宿泊施設等が密集、またアクセスのよい金沢駅前において、2次避難を余儀なくされた方々や、元々金沢に暮らす方々が集う場として、常設型のカフェを運営する。また、周知の目的や、二次避難者へリーチ拡大のために、イベント等で「出張小さなcove」を開く。

なお、対象者（2次避難者）への周知が現在、多くの支援団体において課題となっているが、既存の店舗各種SNS等の他、1/6より広域避難に取り組んだ「能登半島避難者受入基金」のネットワークを活用し、2次避難所となっているホテル・旅館等が独自に開設しているオープンチャットや、LINE グループ等で周知を進めていく。

【場所】 crasco 旅音 5階 (石川県金沢市本町2丁目6-23)

※キッチンスペースを、テナントとしてご厚意で格安で借り上げ、運営

【対象】 能登半島地震で2次避難を余儀なくされた方々を主な対象とし、カフ

珠洲市、輪島市などの能登半島地震における被災・避難者約30人/日

エという性質を利用して、支援／被支援に関わらずに、人が集える場とする。

【期間】 2024年4月1日～2024年9月30日 ※延長の可能性あり

【OPEN】 週2～3日（平日および土日を含む） 10:00～15:00

【席数】 12席程度（小上がりあり）